

評価に係るQ&A（各委員からの質問事項等に係る法人及び県の回答）

○令和6年度業務実績に係る意見等

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 質の高い医療の提供

(1) 政策医療、高度・専門医療の確実な提供

質問事項等 1

【佐藤（裕）委員】

(精神医療センター)

措置入院の受入数、県内における受入割合が低下している原因は何だろうか。

<回答> (法人)

- ・当センターへ措置入院依頼がなされたものは、全て受け入れている状況である。

質問事項等 2

【佐藤（裕）委員】

(精神医療センター)

児童思春期医療は大きな目玉の一つだが、外来患者数の減少が気になった。

<回答> (法人)

- ・児童外来で通院していた18歳以上の患者が成人期へ移行しており、成人外来への移行のタイミングも重なったことにより減少している。

質問事項等 3

【富田委員】

(精神医療センター)

政策医療としての児童病床の運用（強度行動障害を有する児童への包括的アプローチ、児童相談所との連携による一次保護・緊急対応入院やレスパイト入院の受入れ等）がどのように進んできているかを明確にできるとよいと思われま。

<回答> (法人)

- ・適宜、一時保護委託での入院を受けてきたが、今後は児童病床の増加の検討、強度行動障害を有する児童の受入れの検討も含め、児童相談所との連携が必要なケースの受け入れを拡充していく見込みである。

質問事項等 4

【富田委員】

(精神医療センター)

精神科救急を運営する医療機関が提供する高度・専門医療として修正電気痙攣療法等の導入は今後、検討されてもよいように思われま。

<回答> (法人)

- ・令和元年12月の「当センターの今後のあり方に関する報告書」で今後、新しい治療技術や先進的な医療を展開することとしており、現在クロザリルの治療に取り組んできた。
- ・修正電気痙攣療法等については、麻酔科医が必要となることから現在は東北大学病院等との連携により取り組んでおり、今後当院で修正電気痙攣法を含めてどのような高度・先進医療に取り組

むかはその医療体制とその治療法の患者のニーズも見極めながら検討を進めていきたい。

質問事項等 5

【正宗委員】

(がんセンター)

「がん検診件数」が何を指すのか不明です。受診者数ではないと思いますが。

<回答> (法人)

- ・総合がん検診を受けられた方の人数である。

(2) 医療機器、施設の計画的な更新・整備

質問事項等 6

【富田委員】

(精神医療センター)

令和2年以降、脳波計、CT、超音波、心電図、尿検査等の機器の購入が進んできているということですが、これらが有効に使用され、課題である器質因の鑑別や身体合併症の診療が向上していることが明示されるとよいように思います。

<回答> (法人)

- ・機器の使用実績については、別紙1のとおりである。

質問事項等 7

【富田委員】

(精神医療センター)

宮城県に災害拠点精神科病院がない現状を勘案して、建替えを待つことなく、精神医療センターがその指定要件を満たす形で必要な改修、整備を行うことを検討してはどうでしょうか。

<回答> (法人)

- ・当センターは現在災害拠点精神科病院に指定されていないが、24時間緊急対応が可能で、DPAも保有しており、東日本大震災の経験も踏まえて災害訓練に積極的に参加するなど、建替え後は円滑に災害拠点病院に指定されるよう準備に取り組んできた。
- ・建替え前に当センターが指定要件を満たす事が可能か県の指導も受けながら検討を進めていきたい。

(3) 地域医療への貢献

質問事項等 8

【佐藤(裕)委員】

(精神医療センター)

逆紹介率は高かったが、紹介率が大きく減少した原因は何だろうか。

<回答> (法人)

- ・数値に誤りがあったため下記のとおり修正した(業務実績報告書も修正済)。
正33.5%、誤20.7%
- ・紹介率は新規患者に対する紹介患者の割合を示し、年度によって変動が大きいものとなっている。地域移行の進展により入院を目的とする紹介件数の減少が一因であると考えている。

質問事項等 9

【佐藤（裕）委員】

（がんセンター）

紹介医療機関、逆紹介医療機関の地域性（県内の地域分布）を教えてください。

<回答>（法人）

・紹介医療機関の地域分布は下記のとおりである。

仙台市 37%、名取・岩沼・亘理 33%、仙南 13%、県北 4%、他県 13%

・逆紹介医療機関のデータは集計していないが、原則として、元の医療機関に返すことになるため、紹介医療機関の地域分布とほぼ乖離がないものと見込まれる。

（4）医療に関する調査・研究と情報の発信

質問事項等 10

【正宗委員】

（精神医療センター）

何人の医師（あるいはスタッフ）による実績でしょうか。発表に対して参加者数の割合が多いのかもしれませんが。

<回答>（法人）

・医師のほか、コメディカルを合わせた 201 人の実績である。

質問事項等 11

【正宗委員】

（がんセンター）

学会参加などについては、研究所の業績と診療科の実績を分けて出していただけると良いと思います。業務実績等報告書では、延べ人数のみならず、何人の医師あるいはスタッフが参加しているか提示していただくと良いと思います。

<回答>（法人）

・詳細については、別紙 2 のとおりである。

2 安全・安心な医療の提供

質問事項等 12

【佐藤（裕）委員】

（精神医療センター、がんセンター）

インシデント・アクシデントレポートを開示していただきたい。

<回答>（法人）

・インシデント資料については、別紙 3 のとおりである。

質問事項等 13

【佐藤（裕）委員】

（精神医療センター）

レベル 3 b といった事案についても概略を紹介して欲しい。

<回答>（法人）

・入院患者に係る転倒や足を滑らせたことによる骨折事案が 4 件発生した。必要に応じた日常生活動作の解除や薬剤調整時における観察の強化等の対策を講じた。

質問事項等 14

【佐藤（裕）委員】

（がんセンター）

昨年当委員会において問題となった事案についても、事後の顛末を報告して欲しい。

<回答>（法人）

・御遺族と示談交渉を行ってきた結果、令和7年7月21日に示談が成立したことから、医療安全管理指針に基づき、8月4日に記者会見により公表した。詳細については、別紙4のとおりである。

質問事項等 15

【正宗委員】

（精神医療センター、がんセンター）

職員の院内感染対策やセキュリティ研修会受講率のデータをお示しいただけると良いと思います（職員中、受講した職員の割合は100%でしょうか）。

<回答>（法人）

・院内感染対策研修会の受講率及びセキュリティ研修会受講率については、補足資料のNo3に記載のとおりである。

質問事項等 16

【正宗委員】

（精神医療センター）

インフルエンザ予防接種率も未達のままです。何か方策をされていますか。

<回答>（法人）

・未接種の職員に対して声掛けを行っている。

3 患者や家族の視点に立った医療の提供

質問事項等 17

【正宗委員】

（精神医療センター）

・患者さんの待ち時間の分数は、平均ですか、中央値ですか。

<回答>（法人）

・平均値である。

質問事項等 18

【正宗委員】

（精神医療センター、がんセンター、本部）

・接遇研修会の受講率を提示してください。

<回答>（法人）

・対象者51人中、50人参加で受講率98%である。

質問事項等 19

【正宗委員】

(がんセンター)

- イ 参考指標として待ち時間が1時間未満の割合を出されていますが、業務実績報告書に記載の根拠となるデータの提示がありません。提示をされてください。
- ロ 待ち時間調査を年1回以上実施とありますが、具体的な実施回数を記載されてください。待ち時間短縮についての取組はいかがでしょうか。

<回答> (法人)

- イ 根拠資料については、別紙5のとおりである。
- ロ 待ち時間調査は年1回実施している。調査結果から待ち時間が長いとされる部門について、曜日別・時間別受付件数(採血・化学療法等)を把握してあらかじめ混雑が予想される時間帯に職員を手厚く配置する対応を取るとともに、予約受付患者の分散化を各診療科に依頼している。さらには、保険確認をマイナンバーカードで行う患者の増加に備えてオンライン資格確認機器を追加導入した。

4 人材の確保と育成

質問事項等 20

【佐藤(裕)委員】

(がんセンター)

がんセンターの看護師の採用数が少なく、数の不足はないのかが心配である。

<回答> (法人)

- ・がんセンターの50床休床に伴い、一時的に採用数を抑制したもので、今後も必要数を確保していく。

質問事項等 21

【正宗委員】

(精神医療センター、がんセンター)

採用者数などを提示していますが、そもそも全医師数は何人なのでしょう。退職医師数も提示された方が良いでしょう。結局、医師数が増えたのか、減ったのか判断できません。

<回答> (法人)

	精神医療センター	がんセンター
医師数(令和5年度末)	18人	76人
医師数(令和6年度当初)	16人	73人
令和6年度退職医師数	4人(自己都合)	9人(自己都合)
令和6年度採用医師数	0人	5人
医師数(令和6年度末)	14人(3月末退職2人含む)	73人(3月末退職4人含む)

質問事項等 22

【正宗委員】

(がんセンター)

専攻医については、ここ数年の専攻医で、引き続きがんセンターに就職した方はおられましたか。

<回答> (法人)

- ・令和3年度以降に専攻医（後期研修医）から引き続きがんセンターに就職した医師は5人である。

質問事項等 23

【正宗委員】

(本部)

看護師の採用数が16人と大幅減に見えますが、採用予定数を本当に確保できたのでしょうか。医療従事者の採用数も8人から2人と大幅減に見えます。

<回答> (法人)

- ・がんセンターの50床休床に伴い、一時的に採用数を抑制したものだ。採用は原則として退職補充として行っていることから、退職者が減の場合は採用数も減となる。必要数は確保している。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営体制の確立

質問事項等 24

【正宗委員】

(機構全体)

患者さんの声は、委員会や部会以外、執行部や全職員で共有されていますか。

<回答> (法人)

- ・精神医療センターにおいては、各部署の長が出席する運営委員会において報告し、さらに各部署で共有している。
- ・がんセンターにおいては、イントラネットへの掲載及び回覧等により全職員で共有している。

2 収益確保の取組

質問事項等 25

【正宗委員】

(がんセンター)

ここ数年、病床稼働率は60%台後半で固定化しているように見えます。診療科によっても稼働率が異なるかと想像します。診療科ごとや病院全体の適正病床数については、見直しはされていますか。

<回答> (法人)

- ・令和6年4月に1病棟（50床）を休床し、病院全体の適正病床数について見直しを行った。その後も適宜診療科ごとの割り当てベッド数を調整している。

3 経費削減への取組

質問事項等 26

【佐藤（裕）委員】

(がんセンター)

材料費が予算を6億円以上回っていることが経費増大の最大の原因と考えられるが、大きな誤差が生じた理由と、今後の対策を伺いたい。

<回答> (法人)

- ・物価高騰及び高額薬品の使用増によるものだ。後発薬品への切替え等による対策を検討中である。

第9 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

2 就労環境の整備

質問事項等 27

【正宗委員】

(病院機構全体)

ハラスメント研修の受講率を提示いただけると良いと思います。

<回答> (法人)

- ・ハラスメント研修の受講率は、補足資料のNo.3に記載のとおりである。

質問事項等 28

【正宗委員】

(病院機構全体)

医師の働き方改革にあわせて、時間外勤務の状況などのデータも提示していただければと思います。

<回答> (法人)

- ・医師の時間外は、別紙6のとおりである。

○全体評価に係る意見等

質問事項等 29

【郷内委員】

(精神医療センター)

営業損益、経常損益及び当年度純損益の赤字については、その原因の分析が十分にできているとは言えないのではないか。

<回答> (法人)

- ・医師の働き方改革に伴う人件費の上昇、物価高騰による運営コストの上昇などの費用の増に対して診療報酬が上がらず、全国の病院が赤字傾向である。
- ・加えて当センターをはじめとする自治体の精神科病院においては、国の方針である地域移行・地域定着の推進していることなどの要因により入院患者数が増加せず、費用が収益を上回っていることが原因と分析している。

質問事項等 30

【郷内委員】

(精神医療センター)

全国の病院が軒並み赤字を出している現状は、医師の働き方改革に伴う人件費の上昇、医業収入と医業費用の乖離から診療報酬の矛盾による構造的な収益の減少、物価高経費の高騰による運営コストの上昇などが言われているが、精神医療センターの収支の分析は、そのうちのどれに該当するのか。

<回答> (法人)

- ・ご指摘の内容は全て該当していると考えている。

質問事項等 31

【郷内委員】

(精神医療センター)

- イ 病床数の空床は経費ゼロではなくマイナスである。今後病床数の削減を予定するのか。
- ロ 県内の精神医療の病床数や医療資源の調整の予定はあるのか。

<回答> (法人及び県)

- イ 精神医療センターの今後の病床数の削減予定については、一般病棟を一部閉鎖し、児童病棟を増床することを検討している。
- ロ 本県の人口10万人当たりの精神病床数は268.1で全国平均257.8より多いと認識している。県内の精神医療の病床数や医療資源の調整予定は現時点ではない。

質問事項等 32

【佐藤(裕)委員】

(がんセンター)

がん治療に特化した専門性の極めて高い公的病院として設立されたわけである。それを前提として、がんセンターが、がんの治療に関して現在の宮城県内の病院の中でどのような評価を受けているのかが、今ひとつ判然としない。その原因が医療の中身にあるのか、発信力の問題にあるのか、どのような認識なのかをご教示頂きたい。

<回答> (法人)

- ・がん医療に関しては都道府県がん診療連携拠点病院として宮城県の政策医療を充分果たしている。別紙7に示すとおりがん種も多岐に渡っており、難治性がんや希少がんを幅広く治療している。
- ・宮城県がん診療連携協議会では会長・事務局、3つの専門部会の部会長、1つの専門部会の事務局を務め、宮城県の中心的な役割を担っており、他院より十分な評価を受けている。
- ・広報についても、ホームページの更新、地域医療連携の会の開催、宮城県立がんセンター広報誌「せりなべ」を年4回発行し、宮城県内外の750以上の医療機関へ発信し、充分認知されているとの認識である。

質問事項等 33

【正宗委員】

(病院機構全体)

研修会はその開催回数のもとより、職員の受講率のデータが必須です。ぜひ提示をお願いします。

<回答> (法人及)

- ・各種研修の職員の受講率については、補足資料のNo3に記載のとおりである。